

授業概要

教育心理学とは、特定の対象（幼児、児童、生徒）に対して、何らかのはたらきかけを行い、対象がより良い方向に変化する過程について、研究する学問である。本授業では、幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、学習過程に関する基礎的な知識を学ぶ。各回では、教授・学習、パーソナリティ、社会性、動機づけ、人間関係、教育評価など、教育心理学において基本的かつ重要な概念を理解する。さらに、最近の新たな教育的問題も視野に入れ、教育心理学的な視点から諸問題を考察する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：教育心理学の内容と方法
第 2 回	教育と発達のかかわり
第 3 回	乳児期～幼児期の発達
第 4 回	児童期の発達
第 5 回	青年期の発達
第 6 回	パーソナリティの発達
第 7 回	社会性の発達
第 8 回	学習を支える動機づけ・学習意欲
第 9 回	学習のメカニズム①：学習理論、記憶
第 10 回	学習のメカニズム②：問題解決
第 11 回	授業をどのようにデザインするか
第 12 回	学級における心理学①：教師と子どもの関係
第 13 回	学級における心理学②：学級集団の友人関係
第 14 回	教育評価を指導に生かす
第 15 回	教師の熟達
第 16 回	定期試験

到達目標

- 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、学習過程に関する基礎的な知識を身につける。
- 幼児、児童及び生徒の発達や学習を支える方法について、基礎的な考え方を理解することができる。
- 最近の新たな教育的問題も視野に入れ、教育心理学的な視点から諸問題を分析する力を身につける。

履修上の注意

授業では毎回、演習を行ったり、小レポートを書くなどのワークを行ったりするので、積極的に授業に参加すること。
出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配布する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と定期試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。

授業概要

教育心理学の基本的な考えを学び、教育実践との関わりについて考えていく。また学校教育場面でのより実践的な問題について考える。

教育心理学の3領域、すなわち、教授・学習、人格・社会・適応、評価・測定の観点から学ぶ。さらに、現在の学校教育の現状を踏まえて、教育心理学の視点から教育の問題をいかに分析し、いかに解決を図っていくかについて考察する。

授業計画

第1回	「ガイダンス」 教育心理学とは
第2回	「記憶」 記憶のメカニズム
第3回	「知識」 知識と問題解決
第4回	「学習理論①」 学習理論
第5回	「学習理論②」 授業での応用
第6回	「学習方略」 メタ認知と学習方略
第7回	「教育評価①」 評価の分類
第8回	「教育評価②」 パフォーマンス評価
第9回	「学習と動機付け①」 条件付け
第10回	「教育評価③」 テストの分析
第11回	「学習と動機付け②」 動機づけの諸理論
第12回	「学習と動機付け③」 動機づけの諸理論
第13回	「学習と動機付け④」 理論と実践
第14回	「認知特性と個性」 特性と学習環境づくり
第15回	まとめと振り返り
第16回	筆記試験

到達目標

- ・学習理論を理解し、自らの学習に応用することができる。
- ・発達や学習に関する理論や特徴を理解し、授業づくりに生かすことができる。
- ・発達や学習に関する理論と自らの経験や知識を関連させ、新たな問いや考え、解決策を生み出すことができる。

履修上の注意

受講する皆さん自身の経験や学習したことを結び付けて理解を深めたり、積極的に授業内での活動に参加したりする事を期待します。

予習・復習

予習：教科書の該当箇所を読んでおくこと。

復習：授業内で、毎回内容に関連する「問い」を出す。問いに対する答えを考えておくこと
(問いに対する答えについては、授業内でフィードバックを行う)

評価方法

学期末の試験を基本に、講義時間中の小テストや小レポートを参照して総合的に評価する。

- ・平常点評価(授業内で課した課題等) 40%
- ・テスト 60%

テキスト

- ・教科書名：やさしい教育心理学(第5版)
- ・著者名：鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年(ISBN)：2019年(978-4-641-22146-8)